

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立東松山特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校
--------	--

重点目標	1 教職員の専門性の向上 2 安全な教育環境の整備 3 自立と社会参加に向けた支援の充実 4 開かれた学校づくりとセンター的機能の充実
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○一昨年度から太田ステージを踏まえた研究を全校で行ってきた。各学部の実践を全校で共有し、小中高一貫した系統性のある指導を目指している。3年目の今年度はこれまでの研究の成果をまとめる。</p> <p>○平成32年度からの新学習指導要領の段階的实施を踏まえ、教育課程の全面的な見直しを行う必要がある。</p>	<p>①研究・研修の推進及び成果の共有</p> <p>②新学習指導要領の理解と教育課程の見直し</p>	<p>①各学部で研究を行うとともに、全校研修を計画的に実施する。</p> <p>②学部研究のテーマに沿って授業公開を計画的に行う。</p> <p>③新学習指導要領の研修会を実施するとともに保護者への啓発を行う。</p> <p>④学校教育目標、目指す学校像、目指す子ども像の見直しを行う。</p>	<p>①全校研修を計画的に実施し、研修の成果を共有することができたか。</p> <p>②授業公開を計画的に行えたか。</p> <p>③新学習指導要領への理解が進んだか。</p> <p>④学校教育目標等の見直しを進めることができたか。</p>	<p>①新任者向けを始め、夏季研修、中間発表会、研修まとめの会など計画的に実施し、アセスメントの結果を生かした授業作りの理解を深めた。</p> <p>②学部で、また年次研での授業公開と研究協議を計画的に行った。</p> <p>③新指導要領伝達講習(6月)、教育課程研修会(11月)を行った。保護者向け説明会を2月に行った。(3月14日現在)</p> <p>④教育課程委員会を中心に見直しをすすめ、3月に策定した。(3月14日現在)</p>	A	<p>・3ヵ年研究の成果を全校に浸透させるとともに、児童生徒の指導に生かしていく。</p> <p>・来年度も研修会及び授業公開を計画的に実施する。また、改善を図る。</p> <p>・保護者の新学習指導要領への理解を進める。</p> <p>・新学習指導要領を踏まえ、新教育課程を策定する。</p>
2	<p>○防災マニュアルの改訂を行い、職員に周知したが、保護者用のマニュアルは未整備である。また、児童生徒の引渡し方法が確立されていない。</p> <p>○災害備蓄品の計画的な整備体制を構築する必要がある。</p>	<p>①災害時、緊急時の対応についての学校・保護者間の情報の共有化</p> <p>②備蓄品の整備体制の確立</p>	<p>①災害時の児童生徒の引渡し方法を確立する。</p> <p>②簡易版防災マニュアルを作成するとともに保護者へ周知する。</p> <p>③数年先を見通した備蓄品の整備体制を確立し、安心・安全を確保する。</p>	<p>①引渡し方法の確立ができたか。</p> <p>②一斉メールの登録率が上がったか。</p> <p>③簡易版防災マニュアルを作成し、保護者に周知できたか。</p> <p>④備蓄品の整備体制が確立できたか。</p>	<p>①引渡し方法の検討はほぼ確立した。</p> <p>②全校に予告文書を配布してテスト配信するなどした結果、一斉メールの登録は77%から82%に上昇した。</p> <p>③PTA役員会に諮るなどして、保護者の意見も取り入れながらマニュアルを作成し、全保護者に配布した。</p> <p>④備蓄品の検討は進んだ。しかし、整備体制の確立までは至っていない。</p>	B	<p>・引渡し訓練の実施に向け、さらに検討を進める必要がある。</p> <p>・備蓄品を計画的に購入していく必要がある。</p> <p>・保護者の意識の高まりも踏まえ、安全・安心の学校作りをこれからも進めていく。</p>
3	<p>○昨年度から高等部2・3学年での教育課程の複数化が本格実施となった。生徒一人一人の力をより伸ばすため、高等部・教育課程委員会を中心に充実・改善を図っていく必要がある。</p> <p>○家庭と連携し、保護者と共通理解を図りながら児童生徒への指導・支援を進めている。対人関係や精神面などの課題を有する児童生徒については、教育的な視点だけでなく、医療機関、専門家等と連携して指導していく必要がある。</p>	<p>①高等部の教育課程複数化の充実</p> <p>②個に応じた指導の充実</p>	<p>①教育課程委員会、高等部を中心に、学習内容、指導方法、評価等について検討・改善を進める。</p> <p>②外部専門家を活用した教育相談を行い、より個に応じた支援を行う。</p> <p>③教育支援プランの完成時期を1ヵ月早め、児童生徒へより丁寧な指導・支援を行う。また、年度末に面談を行い、評価を共有する。</p>	<p>①高等部の教育課程複数化における課題を明確にできたか。また、解決の方策を見つけることができたか。</p> <p>②外部専門家の相談の内容を保護者と共有できたか。また、支援に生かすことができたか。</p> <p>③家庭訪問、個別面談等で支援の内容について保護者と共通理解を図ることができたか。また、評価を共有できたか。</p>	<p>①教育課程複数化2年目を迎え、複数化のメリットを生かした生徒への指導・支援が展開されている。さらに改善を図っていきたい。</p> <p>②精神科医による教育相談を年間19ケース実施した。事前アンケートの改善により、要点を絞った相談ができた。</p> <p>③支援プランの完成時期を早めたことにより、支援プランを生かした授業づくりに早い時期から取り組むことができた。年度末の面談で、評価を保護者にフィードバックする。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・引き続き、国語・数学・作業学習等を中心とした授業で、個に応じた指導を検討していく。</p> <p>・外部専門家による教育相談は指導・支援に有効である。今後も実施していきたい。</p> <p>・来年度も支援プランを同時期に完成させ、保護者と共通理解を図る時間を十分確保する。また、個別面談等により連携を進めていく。</p>
4	<p>○年2回の学校公開、HP、学校だより等で学校情報を提供している。また、学校間交流を積極的に行っている。コーディネーターを中心として教育相談や学校支援を行い、センター的機能の充実を図っている。</p>	<p>①学校情報の積極的な提供</p>	<p>①HPや学校だより等で本校の情報を計画的・積極的に発信する。</p> <p>②支援籍学習・学校間交流を行い、本校や障害に対する相手校児童生徒の理解を高める。</p> <p>③各教育委員会との連携を密にし、学校就学相談に係る教育相談を適切に実施する。</p>	<p>①HPの更新、学校だよりの発行は計画的に行えたか。また、情報は適切であったか。</p> <p>②支援籍学習・学校間交流を計画的に行うことができたか。また、その内容が双方向に有意義なものであったか。</p> <p>③各教育委員会と連携し、就学相談を進めることができたか。</p>	<p>①HPの情報を全面的に見直し、情報を新しくした。学校だよりは計画通り月初に発行できた。</p> <p>②支援籍学習・学校間交流とも計画的に実施した。本校児童生徒ばかりでなく、関係校児童生徒にとっても有意義な交流であった。</p> <p>③学区内の教育委員会と連携し、就学相談を丁寧に行った。</p>	B	<p>・今後も情報を計画的・積極的に発信し、広く本校を知ってもらう機会をつくっていく。</p> <p>・これからも児童生徒の実態を踏まえた支援籍学習を、相手校と十分意思疎通を図り実施していく。</p> <p>・引き続き各教育委員会との連携を進める。</p>

実施日	平成31年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・太田ステージに基づいたグループ分けをした実践をし、それを先生方がお互いに見せ合うことで、授業の改善が図られていることがわかった。</p> <p>・防災マニュアルは作ればよいわけではない。引渡しなど平日頃から訓練しておくこととよい。有事の際はどうしてもパニックになる。</p> <p>・子どもによって食べられるものが違うので、有事の際の非常食は、家庭で用意してもよい。</p> <p>・有事の際に体育館で過ごすのは、トイレも含めて心配である。</p> <p>・あいさつをする子が増えて、学校の雰囲気明るくなった。あいさつができれば進路の選択肢も広がる。</p> <p>・排泄について、低学年のうちから先生と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>・保護者と学校が日頃から情報交換をして子どもの指導に取り組んでいることが改めてわかった。</p> <p>・学年の子どもたち全員を、学年の先生方全員で見てもらっている。来年度もよろしく願いたい。</p> <p>・高等部の現場実習で、子どもにもう少しいろいろな職種を体験させたかった。</p> <p>・外部に対して情報を発信することは非常に大事なことである。学校で普段どんなことが行われているかをHPでぜひ知らせしてほしい。</p> <p>・毎年学校間交流でお世話になっている。障害理解に関わる話は児童にとってたいへん勉強になっている。児童同士の交流も非常に有益であり、ありがたく思っている。</p>